

令和元年度 「横浜市神奈川区民文化センター（かなつくホール）」 収支予算書兼決算書

(2019. 04. 01～2020. 03. 31)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	114,097,000		114,097,000	114,097,000	0	横浜市より
利用料金収入	29,730,000		29,730,000	24,868,400	4,861,600	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	1,000,000		1,000,000	1,184,072	△ 184,072	横浜市芸術文化教育プラットフォーム
自主事業収入	6,030,500		6,030,500	9,553,731	△ 3,523,231	
横浜市費用負担	0		0	1,810,000	△ 1,810,000	新型コロナウイルス感染症に関する横浜市の費用負担分
雑入	997,000	0	997,000	816,112	180,888	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	350,000		350,000	311,628	38,372	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（広告ラック収入・預金利息）	647,000		647,000	504,484	142,516	各媒体の販売料など
収入合計	151,854,500	0	151,854,500	152,329,315	△ 474,815	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	60,610,000	0	60,610,000	58,673,260	1,936,740	
給与・賃金	60,610,000		60,610,000	58,673,260	1,936,740	
社会保険料			0	0	0	共同事業体及び協力会社各社にて負担
通勤手当			0	0	0	共同事業体及び協力会社各社にて負担
健康診断費			0	0	0	共同事業体及び協力会社各社にて負担
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	共同事業体及び協力会社各社にて負担
退職給付引当金繰入額			0	0	0	共同事業体及び協力会社各社にて負担
事務費	8,468,000	0	8,468,000	8,879,279	△ 411,279	
旅費	250,000		250,000	139,738	110,262	
消耗品費	2,000,000		2,000,000	2,159,576	△ 159,576	
会議ठी費	20,000		20,000	35,466	△ 15,466	
印刷製本費	1,700,000		1,700,000	2,049,370	△ 349,370	広告宣伝費含む
通信費	1,800,000		1,800,000	1,986,249	△ 186,249	
使用料及び賃借料	2,090,400	0	2,090,400	2,097,840	△ 7,440	
横浜市への支払分	74,400		74,400	81,840	△ 7,440	目的外使用料（自動販売機）
その他	2,016,000		2,016,000	2,016,000	0	駐車場賃借料
備品購入費	150,000		150,000	134,266	15,734	
図書購入費	50,000		50,000	38,268	11,732	
施設賠償責任保険	100,000		100,000	84,290	15,710	賠償責任保険
職員等研修費	40,000		40,000	16,008	23,992	
振込手数料	10,000		10,000	7,046	2,954	
リース料	20,000		20,000	12,290	7,710	
手数料	30,000		30,000	54,432	△ 24,432	
地域協力費	207,600		207,600	64,440	143,160	
事業費	13,000,000	0	13,000,000	17,559,769	△ 4,559,769	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	1,000,000		1,000,000	895,884	104,116	
自主事業費	12,000,000		12,000,000	16,663,885	△ 4,663,885	
管理費	63,794,000	0	63,794,000	54,428,315	9,365,685	
光熱水費	17,990,000	0	17,990,000	14,625,636	3,364,364	
電気料金	13,290,000		13,290,000	10,815,890	2,474,110	
ガス料金	2,500,000		2,500,000	2,104,885	395,115	
水道料金	2,200,000		2,200,000	1,704,861	495,139	
清掃費	8,700,000		8,700,000	8,838,530	△ 138,530	
修繕費	3,166,000		3,166,000	674,569	2,491,431	
機械警備費	550,000		550,000	523,200	26,800	
設備保全費	16,388,000	0	16,388,000	14,320,532	2,067,468	
空調衛生設備保守	8,000,000		8,000,000	8,027,200	△ 27,200	
消防設備保守	600,000		600,000	523,200	76,800	
電気設備保守	650,000		650,000	567,102	82,898	
害虫駆除清掃保守	700,000		700,000	654,000	46,000	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	6,438,000		6,438,000	4,549,030	1,888,970	舞台設備保守費、ピアノ点検費など
共益費	17,000,000		17,000,000	15,445,848	1,554,152	ザ・ステーションタワー東神奈川管理組合管理費
公租公課	10,000	0	10,000	6,200	3,800	
事業所税			0	0	0	
消費税			0	0	0	
印紙税	10,000		10,000	6,200	3,800	
その他（ ）			0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	5,972,500	0	5,972,500	10,972,492	△ 4,999,992	
本部分	5,972,500		5,972,500	10,587,581	△ 4,615,081	
当施設設分			0	384,911	△ 384,911	
二一ス対応費			0		0	
支出合計	151,854,500	0	151,854,500	150,519,315	1,335,185	
差引	0	0	0	1,810,000	△ 1,810,000	
自主事業費収入	6,030,500		6,030,500	9,553,731		
自主事業費支出	12,000,000		12,000,000	16,663,885		
自主事業収支	△ 5,969,500		△ 5,969,500	△ 7,110,154		
管理許可・目的外使用許可収入	350,000		350,000	311,628		
管理許可・目的外使用許可支出	74,400		74,400	81,840		
管理許可・目的外使用許可収支	275,600		275,600	229,788		

横浜市神奈川区民文化センター「かなつくホール」令和元年事業報告

1. 施設の概要

施設名	横浜市神奈川区民文化センターかなつくホール
所在地	横浜市神奈川区東神奈川一丁目10番地1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上19階建ての 地上1階から4階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 2,950 m ²
開館日	平成16年7月16日

2. 指定管理者

法人名	横浜メディアアド・清光社 共同事業体 代表企業：株式会社 横浜メディアアド
所在地	横浜市神奈川区栄町5番地1
代表者	代表取締役社長 三浦 彰久
設立年月日	昭和58年1月22日
指定期間	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで

3. 人員配置

項目	人数
館長	1
副館長（運営担当責任者）	1
事業担当責任者	1
舞台技術責任者	1
施設担当責任者	1
運営担当者	3
事業担当者	1
舞台技術担当者	2
経理担当者	1
カルチャースタッフ（受付）	13

4. 事業実績

(1) 利用者数

116,913

開館日数

347

(2) 部屋稼働率

	利用可能数	利用数	利用率	利用者数
ホール	1,041	912	87.6%	55,282人
ギャラリーA	347	330	95.0%	18,496人
ギャラリーB	347	325	93.6%	17,565人
音楽ルーム	1,735	1,481	85.4%	18,557人
練習室A	1,735	1,645	94.8%	3,652人
練習室B	1,735	1,509	87.0%	3,361人
全体	6,940	6,202	89.4%	116,913人

(3) 自主事業実施内容

内容	開催数	参加人数(延べ人数)
アーティスト支援事業	10	2,526人
地域連携事業	37	2,560人
芸術鑑賞を深める事業(鑑賞型)	43	5,767人
芸術鑑賞を広める事業(体験型)	40	1,354人
合計	130	12,207人

5. 委託料収支状況【協定書による経費】(単位:円)

項目	予算額	決算額	増△減
収入			
指定管理料	114,097,000	114,097,000	0
利用料金収入	29,730,000	24,868,400	4,861,600
事業収入	8,027,500	11,553,915	▲3,526,415
合計	151,854,500	150,519,315	1,335,185

支出			
人件費	60,610,000	58,673,260	1,936,740
管理費	63,794,000	54,428,315	9,365,685
事業費	13,000,000	17,559,769	▲4,559,769
事務費	8,468,000	8,879,279	▲411,279
事務経費	5,972,500	10,972,492	▲4,999,992
公租公課	10,000	6,200	3,800
合計	151,854,500	150,519,315	1,335,185

収支計	0	0	0
-----	---	---	---

令和元年度 横浜市神奈川区民文化センター 自主共催事業報告

No.	タイトル	実施時期	会場	動員数	内容
1	KIDSリビングコンサート (1日2回公演)	4月,12月	ホール 舞台面	140	4月はレジデンスピアニストの倉田莉奈さんとフィジカルシアターカンパニーGEROよりダンサーのKEKEさんにご出演いただき、エリック・サティのジムノペディを全曲使い、夢の中を舞台にし、曲やダンスを楽しむ参加型にした。12月はクリスマスがテーマ。商業主義に踊らされないクリスマスの楽しみ方を提案し、演奏曲は宗教色のない曲を選んだ。
2	真空管アンプの会	4月,12月	音楽 ルーム	68	4年目になり周知されてきたが、参加者の年齢層は高く、60代後半から70代の男性が目立つ。2回目は日曜日に開催し、若い世代もターゲット。常連だけでなく初めての参加者も含めて定員の30名を越えた。自作の真空管アンプの持ち込みも過去最高の7台もあり、大盛況の事業となった。
3	赤ちゃんに出会う前のはじめの一歩コンサート	4月	ホール	157	出産育児中のレジデンスピアニスト倉田莉奈さんが、クラシック音楽で妊娠中の不安定になりがちな感情のケアを出来ないかと話したことをきっかけに、初めて赤ちゃんに出会うママたちに向けてクラシック音楽の聴き方のヒントを伝授するレクチャーコンサートを開催した。また、トークコーナーには神奈川区の子育て拠点「かなーちえ」の所長を招聘し、育児の不安などに回答していただいた。
4	はじめの一歩コンサート ①HOP、②STEP、 ③JUMP	5月、10月、 2020年3月コ ロナウイルス感 染防止により 延期	ホール	329	ファーストコンサートに向けて5歳から参加できるレクチャーコンサート。クラシック音楽のコンサートの聴き方や作曲家の思いや楽器のつくりなどをレクチャーし、音楽鑑賞へ無理なく導入するプログラムであった。開館15周年を記念し、子ども向けレクチャーコンサートを年3回、同じピアニスト上原彩子さんと開催し、3回通して聴くことにより、鑑賞力を高めて最終回にはピアノソナタを聴けるまでにした。
5	Mr.シューマン&Mrs. シューマン プロジェクト 2019 オープニングコ ンサート「詩人の恋」	5月	ホール	197	開館15周年を記念し、二人のシューマンをテーマに年間の様々なコンサートを繋ぐプロジェクトを企画し、プロジェクトの質の高さを広めるため開催するオープニングコンサート。世界的なピアニスト エリック・ル・サージュさんとテノールのユリアン・プレガルディエンさんをオールシューマンプログラムで組んだ。メインに『詩人の恋』を置き、シラーの詩に美しく絡みつくようなシューマンの旋律を見事に表現、それはまるで演劇を観るようであったと好評を得た。
6	共催事業： よこはま落語会 ①春風亭一之輔独演会 /神田松之丞独演会 ②桂宮治独演会/ニツ 目の会 ③春風亭一花/喜一 ④桂宮治独演会 ⑤柳家三三独演会	5月、 7月、8月、 10月、11月	ホール	1,480	神奈川区民が落語へ親しむ機会を増やすために、よこはま落語会に共催して実施。初回は飛ぶ鳥を落とす勢いの人気落語家 春風亭一之輔さんで、チケットは早々と完売した。主催のよこはま落語会には若手の桂宮治さんや春風亭一花さん、春風亭菰いちさん等も控え、二ツ目落語家の公演には多少集客には課題は残るが、将来的にはホールでの鑑賞機会を区民の方に提供したいと考えている。
7	シューマンの会 (全6回)	奇数月 (全6回)	ホール	1,631	夜のコンサートに出かけにくい高齢者や子育て世代を対象に、クラシック音楽への興味を深めていただくレクチャー付きコンサート。3回目を土曜日14:00開演の2部形式のコンサートに拡大した。シューマン夫妻の愛の軌跡を俳優の平田満さん、井上加奈子さん夫妻に朗読をお願いし、ピアノ曲で繋ぐレクチャーコンサートを開催。普段は音楽しか聴かない層にも演劇の面白さを知っていただく目的もあり。6回目にはコロナ禍に見舞われる。お客様の声にも押され、コロナ対策を考え付く限り講じ、入場者を減らして開催。人の心を癒し鼓舞することができる音楽の力を改めて認識した。
8	アウトリーチ 中央図書館	6月2日	中央図書 館	50	難解なシェイクスピア劇を分かりやすく60分にリメイクし、3人の役者によるリーディングと音楽で繋ぎ、演劇に親しんでいただく機会とした。今年度は、シェイクスピア公演への集客を増やすためシェイクスピア企画を繋げた。神奈川県だけでなく横浜市全体へも知らせたいと思い、横浜市中央図書館に今回の公演リハーサル朗読風景のご紹介を持ちかけたところご快諾いただき共催が実現した。横浜市中央図書館でもシェイクスピア関連の本の貸し出しは少ないようで、シェイクスピアの認知度を上げるため、また若い世代の図書館離れなども問題も含めて、連携する意義があると感じた。
9	おとなJAZZ	6月7日	ホール	282	今回はトランペットをテーマに代官山鳥屋書店の音楽コンシェルジュと出演者3名によるJAZZトークと若手トップの類家心平さんにカルテットを組んでいただき、オリジナル曲を中心に60分のライブを開催。類家さんはいろいろな奏法を交えてくださり、トランペットってこんな音が出るんだと紹介。アンケートはいつもながらに好評だったが、第1部のJAZZトークについて分かりにくい、聞こえにくいというお声があったので、来年度は一計を講じる。

No.	タイトル	実施時期	会場	動員数	内容
10	リーディングの会	6月(全3回) 1月(全3回)	音楽 ルーム	240	午前の部、午後の部共に10名の定員がすぐに満席。継続して参加している方から申し込みなかったとクレームもあり。テキストは、シェイクスピア「テンベスト」。この作品はシェイクスピアにしては単純な作りだが、単純だからこそ表現が難しいという点に参加者は頭を悩ませたもよう。2日目の本読みでは相手のセリフの読み方に呼応するというワークショップならではの相互理解が瞬時に行われた。発表会も皆さん楽しまれたようで、「続けたい!」「もっとやりたい!」との声全員から上がった。
11	3人ぐらいdeシェイクスピア「ハムレット」	6月14日、 15日	ホール	135	今回も金曜夜のプレビュー公演と土曜午後の本公演の2回公演を実施した。他のシェイクスピア関連の事業を繋げて連携したところ僅かにお客様が増加。しかし、まだまだ少ないので来年度に向けて更に力を入れたい。今回は劇団ハイリンドより伊原農さんが出演。とても器用で実力派の俳優さんなので直ぐに他のメンバーとも馴染み、客席を沸かせた。横浜市中央図書館での参加者も本公演を見にきてくださり、リハーサルとは違った本舞台での迫力に好評を得た。
12	共催事業: トリオグラッサウ 室内 楽の夕べ	7月1日	ホール	117	4年前よりランチタイムコンサートに地元出身ピアニストとして参加していただいている平沢匡朗さんが、毎年参加しているオーストリアの音楽祭の教授陣からヴァイオリンの水島愛子さん、チェロのクレーメンス・ヴァイゲルさんがトリオを組み、モーツァルト、ロベルト・シューマン、クララ・シューマンのピアノトリオを演奏した。大変レベルの高い演奏だったが、今回のリサイタルのために集まり、固定ファンはついていなかったのが残念ながらチケットの販売数は伸び悩んだ。しかしながら、二人のシューマンのピアノトリオを聴く機会を提供できたことは、このプロジェクトにとって有効だった。
13	七夕企画 3件	7月7日	ホワイエ、 ホール	584	七夕の日に、気軽になくホールでプラネタリウムと朗読を経験していただき、宇宙やお話の世界に思いを馳せ、忙しい毎日を忘れ安らぎのひと時を経験していただく七夕企画、下記の3件を実施した。 ・ミニミニプラネタリウム ・平面プラネタリウムと「セロ弾きのゴーシュ」 ・チェロと朗読でつづる「銀河鉄道の夜」
14	共催事業: 子どものためのシェイクスピア「じゃじゃ馬ならし」	7月19日～ 7月21日	ホール	590	今年度からは共催事業。今回の演目は「じゃじゃ馬ならし」だったので、話の内容が男女平等社会において向いていないのではと危惧したが、男女の激しいぶつかり合いから愛が育っていく様子が演出され、好評だった。また、今回から神奈川大学を始め都内の大学から(計4大学)ゼミ単位での参加があり、初めて演劇を観た学生ばかりで心配したが、ゼミで扱ったシェイクスピアの原作をアレンジした「子供のためのシェイクスピア」のテキストの細かいところまで差異が分かったようで、後日レポートを大学から送られ、我々も大変勉強になった。
15	伊藤キムの プレイパークかなつく	4月13日、5月8日、 5月11日、5月24 日、6月6日、6月22 日、6月29日、7 月20日、7月27日 全9回	音楽ルー ム	102	地域コミュニティのための身体ワークショップ。かなつくホールを知らない人をダンスでホールを繋げようと、ダンス未経験者や赤ちゃんのいるママたち、親子、様々なジャンルのアーティストなど様々な対象に向け、自分の体や感覚に働くダンスプログラムをかなつくホールのレジデンスアーティスト伊藤キムさんの発案で実施。初回参加は無料にするなど参加しやすい環境を作った。赤ちゃんプログラムや親子プログラムは満席。
16	おとなワークショップ ①日本画 ②抹茶体験 ③鼓	7月29日、 8月10日、 8月11日	ギャラリー	50	昨年度に引き続き、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催へ向け、自国の文化に触れることが出来るように和のお稽古を企画。①では日本画に挑戦するのは初めての方ばかりで、参加者は最初は不安げであったが、墨で下絵を描き、粉状の岩絵の具をニカワで溶き、思い思いの色を使いながら、いつの間にか全員が没頭し、真剣に描いている。②抹茶体験、③鼓体験も参加者が増え、有意義な時間と満足感を得ている。
17	おやじピアホール 出舞一丁!	8月2日～3日	ホワイエ	270	今年は新たなオヤジ2名が加わり、B軍だった70代の2名はA軍に昇格し、ピアホールを盛り上げてくれた。広報のために南区の横浜橋通り商店街のイベントにも参加したが大好評。区をまたいでのパフォーマンスだったので、今回限りではあるが、反響が大きかった。おやじパフォーマー出舞一丁は、高校2年生から72歳の多様なバックグラウンドを持つ10名で構成されているが、参加者全員が対等な立場でアイデアを出し合い相互理解を深めて、世代間交流ということでは一押しである。
18	共催事業: プログラミング言語 VISCUITファシリテ ーター養成講座	8月6日	ギャラリーB	17	コンピュータのプログラミングも進化し、誰もが簡単にプログラミングできる時代になってきた。開発陣が長年にわたって知り得たノウハウ・メソッドを凝縮して教える。プログラミングが教科として加わりつつあり、現役の先生も参加した。

No.	タイトル	実施時期	会場	動員数	内容
19	共催事業: ティーンズアコース ティックサミット	8月10日	ホール	180	今年のティーンズバンドサミットは、バンド単位でも個人でも、ロックでもアコースティックでも10代が取り組んでいる音楽活動を支援する姿勢で参加者を受け入れた。昨年度は専門学生の参加が目立ったが、今年度は高校生の参加が多くあり、優勝をはじめ入賞者も3組とも高校生だった。レベルも高く、今後の益々の活躍を期待。優勝した「おだひとり」は、横浜駅西口のハロウィンイベントに出演した。
20	共催事業: アレクサンダーテクニ ク	8月1日～ 10日	ギャラリー	105	講師にイラン・レイシェルさんを招いて学びを深める機会とした。当館では、体の使い方を見直し自分と対話ができるようアレクサンダーテクニク東京スタジオと共催して、神奈川区民がアレクサンダーテクニクに触れる場を提供している。6日間連続昼の講座には、脳卒中のリハビリ目的の男性の参加あり。夜の講座は日替わりで音楽や演劇、座学、能と様々なツールを取り入れ、実施した。
21	KIDS DAY 7企画	8月11日	全館	511	地域に根差し始めたワークショップ祭りをもっと多くの人に知っていただけるよう、来年度はより広報に力を入れていこうと考えている。今回は赤ちゃんコンサートをチェコアニメの上映会に変更したり、平日夜に開催していたPLAY me!をミニコンサートの代わりに実施。当日申込みや自由参加、親子ペアで参加する事業を追加するなど見直しを重ねている。また、地域作業所、パン屋、菅田地区の朝採れ野菜も販売するマルシェも同時開催。全館がにぎわった。①ダンボールde海賊船を作ろう! ②KIDS meet 歌舞伎囃子③タブレットdeプログラミング④Play me!⑤みんなでdance!ケイキフラダンス⑥チェコアニメ⑦みんなでテンポラリーアートに挑戦した。
22	ワガノワバレエ 特別レッスン	8月11日 ～13日	ホール 舞台面	150	世界最高峰のパレエ学校の教師のテクニク重視の日本のレッスンとは違う、表現重視のレッスンを受けることにより、より世界に飛躍するアーティストを養成する機会とした。今年も定員いっぱいの人気ワークショップになった。中華街近くでも同ワークショップが開催されたので、かなつくホールでのワークショップには懸案事項であった他県からの参加者ばかりでなく、神奈川区内や横浜市内からの参加者が昨年度より多く参加することが出来た。
23	アウトリーチ: 神奈川区役所 アフリカダンス	8月21日～ 22日	神大寺中 央公園、イ オンスタイ ル、松見 集会所 ほか	100	横浜アフリカ会議の関連行事として、神奈川区役所地域振興課より依頼を受け、昨年度と同様のアフリカダンスのアウトリーチをコーディネートした。今回は、公園内にあるログハウスや商業施設の催事コーナー等で実施したところ、普段ダンスや芸術、アフリカに興味を持たなかった人も、その場に居合わせたことにより、気軽に参加が出来、ダンスやアフリカを知る経験が出来たことは、大変良いと思う。今後も神奈川区内でアフリカへの興味や踊ることの楽しさを広げたい。
24	かなつく寄席 若手応援寄席	8月31日	ホール	291	今年度は六角橋在住の瀧川鯉丸さんに加え、実力派二ツ目の笑福亭羽光さん、入船亭小辰さんが出演した。前年度ようやく100席を超える程度の集客であったが、今年度は落語を初めて気軽に低料金で聞こうというお客様プラス、普段から春風亭一之輔さんや柳家三三さんの高座を聞きに来る耳の肥えたお客様が増え、ほぼ満席となった。アンケートを読むと、評判の二ツ目の実力をうかがいに来たようで、この若手応援寄席が一種のショーケースの役割も担えるのだと嬉しい発見があった。
25	共催事業:キムの部屋	8月30日～ 9月1日	ギャラリー	102	レジデンスアーティストの伊藤キムさんの足跡を振り返る展示企画をギャラリーAにて開催した。上演記録のパネル、衣装を展示し、過去作品のDVD視聴コーナーも設けた。DVD販売していない作品も多くあったので、伊藤キムさんの古くからのファンや、活動を再開してから伊藤キムさんを知った若い世代から喜ばれた。また、生身の伊藤キムさん自身も展示し、「ギターの弾き語り」「伊藤キムをデッサンする」「ラジオで踊る」などのパフォーマンスタイムも設けた。デッサン会には当館主催事業の「僕らの劇場ワークショップ」に参加している子どもたちも参加した。
26	未来のヴァルトウオーズ を紹介します♪(全2 回)	9月、2月	ホール	414	開館15周年を記念して、神奈川区民に将来有望な若手アーティストの旬の音を聴かせる新シリーズを企画。第1回の9月公演はヴァイオリニストの松田理奈さんよりダブルヴァイオリンの提案があり、ミュンヘン国際コンクール第3位に入賞した日本人ヴァイオリニスト北田千尋さんを掛け合わせた。60分の公演を2部構成にしたので、そもそものプログラムと追加したプログラムでコンセプトがブレてしまい集客が難しかった。第2回にはヴァイオリニストの松田理奈さんと直近のチャイコフスキー国際コンクールで2位に入賞したピアニストの藤田真央さんの掛け合わせで満席となった。
27	ようこそ魔法の国へ ①魔法の箱探検隊 かなつくKIDSプログラム ②ようこそ魔法の国へ miniminiオペラ 「カルメン」	10月5日	ホール	233	①扉前室を洞窟に見立て、客席をあ列～こ列まで探検しながら巡り、舞台面でクイズ形式で音楽を聴く3歳～5歳対象の音楽ワークショップ。 ②ホールを魔法の箱に例え、扉を開けると不思議な世界に入り込み、60分間でオペラを鑑賞できる、家族で参加でき、楽しくオペラに触れられる導入企画。今年度より神奈川民ホールのオペラ企画と連携企画になった。「カルメン」は内容が子ども向けではないので、「間の悪いホセのせいであんなに幸せになれなかったカルメン」を演出した。バリトン大山大輔さん、ストーリーテラー長谷川寧さんに加え、カルメンに高野百合絵さん、ホセに秋山和哉さんの2名の実力派若手歌手、音楽はピアノに宇根美沙恵さん、パーカッションに櫻井音斗さんの計6名が出演した。

No.	タイトル	実施時期	会場	動員数	内容
28	共催事業:アーキタンツ コラボ企画 WS&ショー イング	10月6日	ホール	172	かなつくホールでは4年前からコンテンポラリーダンスの伊藤キムさんをレジデントアーティストに迎え、コンテンポラリーダンスの普及に力を入れてきたが、集客がなかなか難しかった。そこで、コンテンポラリーダンス界を牽引してきたアーキタンツ・スタジオと共催し、世界的アーティストが主宰するワークショップのショーイングを誘致した。日本でも大規模会場のチケットが即日完売するピナ・パウシュ ヴッパダール舞踊団のジュリー・スタンザックさんの演出という事もあり予想を上回る集客となった。
29	曲目解題コンサート (全3回) ①藤倉大「さらさら」 ②シューマン:交響曲第 3番「ライン」 ③シューマン:ピアノ五 重奏	10月25日、 10月29日、 11月28日	ホール	296	第1回目は横浜音祭り事業補助金を取得し実施。普段、現代音楽を好まない方へ向け現代音楽の聴き方、楽しみ方を提案したく現代曲を選定。第2回目はシューマンの交響曲第3番をカメラータかなつく(かなつくホール専属室内楽団)で提案。解説も各パートが分担し、ハプニング等も交えて若々しさあふれる演奏となった。第3回目はかなつくホール専属のカシオペアアカルテットにピアニストの中山博之さんを加え、シューマンのピアノ五重奏曲を曲目解題した。
30	共催事業: 横浜音祭り2019 横浜18区コンサート 大江馨	10月29日	ホール	240	横浜音祭りが18区で展開する平日マチネ1時間コンサートに、区民文化センターごとに特色を出したいとお声がけいただき、レジデントアーティストのカメラータかなつくとのコラボ、協奏曲を提案した。普段から仲の良い大江馨さんがソリストだったので、カメラータかなつくに集まったメンバーはプロオケだけでなくソリスト出演、かなり豪華になった。共演も大変素晴らしい内容になり、横浜市からも好評価を得る。
31	アウトリーチ: 横浜市立浦島丘中学校	10月15日~ 17日	浦島丘 中学校	863	合唱祭に向けて全校生徒に向けての指導を1日、3年生5クラスに指導する2日間、計3日間のアウトリーチ。講師にテノールの澤原行正さんをお願い、体の使い方、腹式呼吸に重点を置き、残り1週間で仕上げるためのアドバイスをした。合唱祭に招待を受け、お伺いしたところ驚くほどよく仕上がっていた。初日だけレジデントアーティストの倉田莉奈さん(ピアノ)に同行いただいたが、ピアノを担当する生徒にもアドバイスの必要性を感じた。
32	テレジンの子ども達パ ネル展	11月27日~ 12月8日	ギャラリー日	264	美術館での鑑賞へ繋げるための身近な場での展示企画。東京オリンピック・パラリンピックを来年度に控え、平和の尊さと国際交流の大切さを考えていただく機会になればと、クリスマスコンサートに来日したチェコの少年合唱団に関連して、チェコのテレジンにあったユダヤ人強制収容所の子どもたちが遺した絵や詩を紹介。また史実に基づいたドキュメンタリービデオの投影も常時実施。作品は埼玉県平和資料館より無償で借り受けた。今後も文化施設に出来る「平和の尊さ」を考える機会を提供していきたい。
33	チェコ少年合唱団 ボニ・ブエリ クリスマスコンサート	12月6日	ホール	273	海外の合唱団に触れ、合唱の奥深さを知り、家族でクリスマスシーズンを楽しく過ごすコンサート企画。ヨーロッパ公演で歌った「トロ」の唄をアンコールで披露してくださり、猫バスの可愛いパフォーマンスには会場も沸いた。
34	こどもJAZZ	12月21日	ホール	340	1年ごとにお越し頂いているROCOさんの子どもJAZZは今回も大人気で満席。「幸せなら手を叩こう」では、ROCOさんが会場内を練り歩き、一緒に歌いましょうと子どもたちを誘ったところ、ハーメルンの笛吹き男のようになって、沢山の子どもたちが舞台まで上がり、一緒に歌った。このコーナーだけ撮影を許可したところ保護者の方も舞台前に詰めかけ、大賑わいの楽しいコンサートとなった。ホワイエにもクリスマスの記念写真コーナー(黒板アート)を作った。
35	アウトリーチ 神奈川小学校	11月6日、 11月13日、 12月3日、 12月4日	神奈川 小学校	65	昨年度の4年生に実施したプログラムが大変好評で、今年度の4年生にも4日間の歌舞伎囃子作曲プログラムを実施。授業が順調に進められないかもしれないと先生が危惧されていた通り、発表会の前日までのリハーサルは困難を極めたが、その日の放課後、そして翌日8:00に集合して練習を重ね、見事に発表をすることが出来た。やや緊張しながらも、講師の望月秀幸さんの合図を見逃さないようにとの真剣なまなざしと、拍手を受けた時の誇らしげな様子が印象的であった。
36	アウトリーチ 神大寺小学校	11月7日、 12月16日、 12月17日	神大寺 小学校	103	今年で3年目になるが、プログラムは少しずつ改良をしている。今回は教科書での「狂言」や「柿山伏」の予習が出来ていなかったため、実地で狂言の所作、姿勢、謡、舞などを体験してもらった。発表は各クラスの有志を募ったところ、3クラス各2グループが出来るとほど集まり、大変盛況だった。

No.	タイトル	実施時期	会場	動員数	内容
37	アウトリーチ 盲特別支援学校	12月6日	盲特別支援学校	100	盲特別支援学級の幼稚部から高等部、教職員を含め100名の観客にクリスマスソングを2曲披露した後、2、3人のグループに1、2名の合唱団員が加わり、チェコの民謡「オーラスコー」をチェコ語で歌うために口伝で歌を教えてもらった。初めて聴くチェコ語、旋律に戸惑いながらも盲学校の生徒たちは、同世代のチェコの少年たちとの交流を楽しんだ。発表はグループに分かれ、その場で歌った。会場中から美しいハーモニーが沸き立ち、非常に感動したと先生からも感想をいただいた。
38	アウトリーチ 浦島小学校	12月19日、 20日	浦島小学校	94	本格的な箏(琴)を7台、所有されている小学校からの依頼で、5年生3クラス1回ずつの体験で「さくらさくら」を演奏できるようにプログラムを作成。2人1組で演奏できるよう琴を追加で8台レンタルした。どのクラスにも先生の注意が必要な児童がおり、難しければ退出させると仰っていましたが、どの子も能動的に授業に関わり、琴を楽しそうに演奏していた。
39	共催事業： お囃子プロジェクト in かなっくホール	1月5日	ホール	161	歌舞伎や日本舞踊等の伴奏音楽として伝統芸能の舞台で活躍する、若手の邦楽囃子の演奏家が立ち上げたプロジェクト。共催事業として日本伝統芸能を紹介することを応援する。
40	共催事業： (お)もろい夫婦	1月18日	音楽ルーム	106	開館15周年記念コンサートにご出演いただいたアル☆カンパニーに、東京で公演したリーディングプログラムの再演を提案し、共催での上演が実現。50名定員で2回開催したところ、各回共に追加席を出すほど満席。また、終演後にアフタートークを開催した。ご来場のお客様には原作者の平田俊子さんへの質問が集まり、エッセイに興味をお持ちの方が多くいらしたのが印象的だった。
41	かなっく寄席 春風亭一之輔 独演会	1月25日	ホール	293	春風亭一之輔さんには、かなっく寄席の初年度にご出演いただき、共催する「よこはま落語会」では、かなっくホールで年2、3回独演会を開いていらっしゃるのでも、お客様が割れないか心配したが、チケットは早々に売り切れた。前座の春風亭貫いちさんに「鮑のし」の話の止め方を教えていなかったそうで、貫いちさんが全部話され、前座が20分以上嘸すという珍事が起きたが、観客は辛抱強く聴いてくれた。一之輔さんはその後「河豚鍋」「新聞記者」「猫の災難」3話で大いに客席を沸かせてくれた。
42	アウトリーチ 神奈川図書館	2月1日	神奈川図書館	52	図書館のみの募集告知にもかかわらず早々と定員に達した。神奈川図書館に初めて来た人は4名、かなっくホールに来館したことがない人も16名もいた。このアウトリーチから翌年の七夕企画にお見えになる方も多いため、大変意義のある活動だと自負している。普段からボランティアで読み聞かせをしている方の参加が増えているようで、プロの舞台俳優の実力を目の当たりにし、驚きともにこのアウトリーチを学びの場にされている方の感想が目立ち始めている。
43	アウトリーチ 白幡小学校	2月18日、 19日	白幡小学校	30	1か月後の卒業式を前に、今一度心をひとつにさせるような活動を直前にしたいと依頼があった。今年は新型コロナウィルスの感染が騒がれていたが、学校の判断により予定通り実施。初めて出会う「ガムラン」音楽のアウトリーチは大成功だった。30名を3グループに分け、別々の楽器、別々の音階、別々のリズムを段階的に組み合わせ、最後に全体でセッションが完了し、自分たちの順番が終わっても客席でリズムを刻んだり、友だちに教え合ったりして、どの子も心から音楽を楽しんでいた。
44	共催事業： 伊藤キム『病める舞姫』	2月10日～ 11日	ホール	130	昨年度、当館が主催した伊藤キムの新作「病める舞姫」ショーイング公演の世界ツアーに向けて、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM)に参加し、伊藤キムさんが主催、演出をした。TPAM期間であったので、海外からの来場者が多く集まり、ヨーロッパ、東南アジアからの参加者から好意的に受け入れられた。日本人の来場者は昨年度発表作品の再演ということもあり、少なかった。
45	共催事業：打楽器アン サンブルプチフェスタ 2020 FURIKAERU	3月7日	ホール	100	レジデントアーティストの神田佳子さんとの共催で開催した。出演者25名の上、曲ごとに出演者が変わるので、新型コロナウィルスの感染が無いようにボックステーブルでも様々な取り組みをし、当日を迎えた。早くにチケットを売り止めにしたこともあり、客席には余裕があった。少ないお客様でも無観客時のリハーサルの時には無かった音楽の盛り上がりを感じ、やはりお客様がいてこそライブパフォーマンスだなと感じた。この事業に関して後日、体調不良になった方は出演者にも観客にも発生せず。
	全45事業開催		動員総数	12,207	